

# 経済マンスリー [原油]

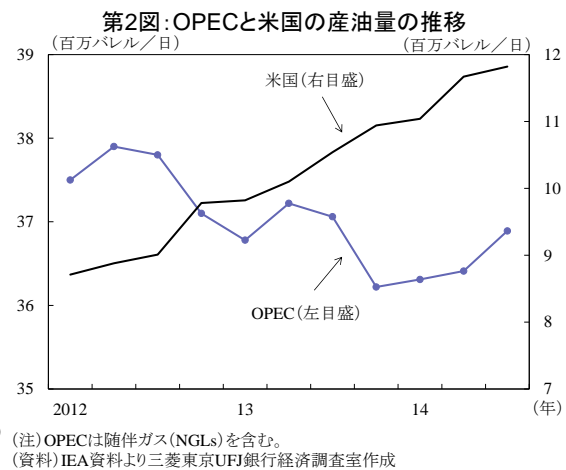
## 原油価格を左右する OPEC 総会の行方

原油価格 (WTI 期近物) は 9 月中、91～95 ドルの狭いレンジで推移した (第 1 図)。しかし、10 月に入ると、国際通貨基金 (IMF) による世界経済見通しの下方修正、欧米の経済指標悪化等を受けて世界景気の減速懸念が急速に強まったことから、原油価格は下落傾向を辿った。さらに、国際エネルギー機関 (IEA) による世界の原油需要見通しの下方修正や米原油在庫の増加といった売り材料が続き、22 日の原油価格は 80.52 ドルと 2 年 4 ヶ月振りの安値に下落した。足元では 81 ドル近辺で推移している。

原油市場では、世界景気の減速懸念を受けて原油の需要減退観測が強まったと同時に、供給過剰感があらためて意識されており、価格の圧迫材料となっている。

米国では、シェールオイル増産を受けて産油量の拡大が続いている (第 2 図)。他方、石油輸出国機構 (OPEC) の産油量は、2013 年後半にリビアの大幅減産により落ち込んだが、足元ではリビアの生産回復に伴い拡大しており、9 月の OPEC 産油量は約 1 年振りの高水準となった。7～9 月期の世界の原油需給バランスは供給超過となったが、OPEC が生産調整を実施しなければ、10～12 月期には超過幅が拡大する可能性がある。

先般、OPEC のバドリ事務局長は、11 月 27 日開催予定の OPEC 総会で生産目標が引き下げられる見通しを示した。しかし、他の関係者は目標据え置き見込みと発言するなど加盟国間の合意がなされておらず、総会直前まで駆け引きが続くであろう。生産目標引き下げが決定されれば原油価格は底堅さを維持する見込みだが、生産目標が据え置かれた場合には、供給過剰感が強く意識され、さらにレンジを切り下げると予想される。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo\_takeshima@mufg.jp  
篠原 令子 reiko\_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。